

内譯

四拾七圓五拾壹錢 會誌第二號印刷代
貳圓貳拾四錢 會誌送料
差引殘高金拾八圓八拾六錢

●會費領收

四十四年度分
江口 折枝
四十五年度分
佐々木 孝 江口 折枝 湯川 たき 竹田 菊
橋本ヒサシ 松島 鐵 水島 いく 豊島 春江



交 詢

八十
安岡 寅恵 島津 ミチ 吉場 のぶ 森山 まさ
澤田 秀 小堀 くま 市瀬富貴子 稻葉 みつ
半田 タマ 濱野 ひで 長谷川スカ 堀尾 トメ
千葉 安良 大池ふさよ 渡邊 梅 河崎 なつ
川村 はな 加賀山 貞 吉永 ふみ 竹尾 恵子
竹田 倭子 田中 元恵 高橋 スエ 土屋 つね
筒井 たか 中島 喜久 中西 ヒサ 中川 絹重
上村しづか 小林きしの 櫻井 藤枝 白鳥 シロ
森 さみ 關 いね 林 はる
四十六年度分
林 はる

●母校便り

○桃櫻既に去りて綠陰なつかしき夏は來り候、
ああ綠葉の私語、如何に希望多き聲には候はず
や。本校三百の生徒は今や彌、この私語に奮ひ
起ちて孳々切々學業にいそしみ居り候。夕暮雲
の遠方に流るゝ時、夏草踏みて。校庭のそら

離別を惜しむ、悲喜交至とは實に同夜の感に候
ふべし。

○同卅日卒業式舉行せられ候。螢雪の功なりて
かざす桂の花の枝、家の風をもと祈りし君や如
何に喜びの眉開きて待ち迎へられけんと察せら
れ候。

○四月一日より十日に至るまで春季休業。行李
の底深く忍ばせし解き洗ひ衣の小ザッパリと拾
などにや縫ひかへられ候ひけん、さても櫻花に
妨げられざりきや如何。

○四年生全部は此の休業期を利用し三月卅一日
午後十一時新橋を發し、伊勢奈良京都大阪等に
修學旅行致し候。或は古き都の迹を尋ね、或は新
しき事物を知り百聞は一見に如かずと且つは驚
き且つは喜びて、四月九日午前七時再び都の人
と相成候へば、すでに東都の花は旅の人を待た
ずして徒に根に返り、茗溪河畔そらる晩春の愁
を感せしめ候。

○同十日は新入生の入舎と四年生全部の牛込區
赤城元町第三寄宿舎に移轉との大活動を致し

歩きこそ、卒業生諸姉が此の頃の思ひ出でかと
存せられ候。

○過去三ヶ月間に於る事ども些御報道申上ぐべ
く候。三月廿七日滿都の花雲漸く春色を装はん
とする時、かの大講堂に於て例年の如く卒業生
送別會相催され候。諸姉が成業を祝し、はた、

候。四年生の移轉は從來の寄宿舎が狹隘となり
し爲め先生方の種々なる御協議に出でたる結果
に御座候。人は兎角古きに執着する性のものに
候なつかしき父母の膝下を離れては二なき三年
間の我家なりきよ、と願ればあすは復見得べき
家根の瓦さへ殊更のなつかしさを感せしめ候。
かくて旅行の疲れと移轉の寂しさを抱きつゝ、
新しき家にあかし候一夜はなかなか思ひ出深
き種をどいめ申候。まして新入の諸子は千里故
郷を思ひて馴れぬ藁布團の上幾度寝反りし、折
角語りし父母の聲は夢と醒めて、そぞろに便り
なさをひしひしと感せられ候事と存じ候。かく
て移轉せし四年生も新しき生活に入りし一年生
も共に待ちし月日を漸く六十日と數へて、今日
此の頃は早暑中休暇の楽しさのみ毎夜夢に入る
事しきりと相成候。

○五月六日初夏の光景清新なる一日、稻毛の海
濱に郊遊會致され候。海を見山を見邪念なく妄
念なし、海に入りて貝を拾ふものあり、畑辿りに
千葉町を訪ひしものあり、とりどりに歡を盡し

て一日を過し申候。

○同十一日第廿三回文科學術談話會は講堂に於て開催せられ候、右は雜報欄内記事御覽下され度候。

○同廿七日日本海々戰第七週年紀念當日にて、特に海軍省より派遣せられたる海軍大佐大野房次郎氏の御講演を拜聴致候。

○翌廿八日の地久節は、例年の通り午前は莊嚴なる式これあり、夜は電燈まばゆき一堂に會して、或は餘興に或は音樂に心ゆく限り打興じて、いさゝか祝賀の意を表し申候。

○こゝに特筆大書して御報道申すべきは、六月三日畏多くも、皇后陛下の行啓を忝うし奉りし事に御座候。わけて拙き筆の口惜さは有難き事の數々描き出すべきすべも覺えず候へば何も何も止め置き候。但し大様はすでに新聞雜誌の報道其の他に御承知の事と存し候。實に我校への行啓の一事は廣く女子教育界の光榮と申すを得べく候、我等益、其の自分を務め聖旨の萬分の一にも報い奉らむことをひたすら期するもの

も自分等にて水を汲みてわかし、買物にも出かけ申し、水入らずにて誠に清き生活をつづけ居り候。然し私には到底家事の方面の誘導は出来申さず候へども、早晚家庭の人となるべき彼等に對し、精神的誘導には只管つとむる考におぼし候。やさしき子等は衷情より出でし忠告をよく容れ呉れ候へば、時にはありかたさに涙ぐむことさへ之れ有り候。

師範には八反田様、長谷川様御出で遊ばし候間よく御邪魔に參り、心ゆくばかり話し合ひ申候。(下略)

右は在宮崎高等女學校の賛助員上村靜氏より客員千葉安良に送られし私信を、同氏の許可を請ひて掲げたるものなり。

◎三原便り

見渡す限り若葉青葉で、たゞ待宵草の淋しく人を待つて居るばかりの時節となりましたが如何お暮し遊ばすれますか。(中略)

さて附屬も教生時代と違つて、自分のものとな

に御座候。

○終りに臨み諸姉の益々御清榮ならんことを御祈り申上候。

◎宮崎便り

(前略) 國語のみ四組(兩二年、兩三年)十八時間受け持ち居り候へども、同じ學科の事とて準備には時をとり不申候へども、日記添削物の多きには忙殺され居り候。

昨日は教員會にて種々校風につきての議出で申し私も漸く當校の講堂が廣く見ゆるやう相成り候につき、所感と微衷とを申し述べ候處、幸ひに同情を得、研究の問題と相成り嬉しさに涙さへさしぐまれ候。(中略)

私は目下補習科生六名と學校近くに比較的清楚なる家を借り受け新世帯を營み居り候。家はさほど廣からず候へども、七人家内には先づ十分

に候。庭園はひろく候うて、宮崎縣特有の杉の生垣に圍まれ、花壇あり、菜畝あり、梅の老木、椎の大木これあり、一寸風情これあり候。風呂はらば一層立ち入つて教育せられて、御愉快な御事でおぼいませう。地方へ參りまして、殊に師範生を相手に致すにつけて、御校の生徒の無邪氣に、活氣があつて、文科的に進んで居るのが分りました、しかし私はすまなかつたことです。が、御校の六週間は如何しても根本訓練に立ち入つて働くことができませんでした。それは私の不徳、しなかつたのでなくて能はなかつた所も大いにございます。また確かに致しませんでした。無遠慮に云ひますと、何處かに嚴肅な眞面目を缺いて居るやうに存じつゝけて、あきたらなくおぼいました。これ東京における生徒と云ふのではなくて、附屬一般の弊かも知れませぬが、そのあきたらなかつた感、三原の人となつて、十二分に満足せられませんでした。實に眞面目なところ、私は幾度生徒から警策を與へられるか分りません。然し、それに伴ふ弊は亦尠くありません。御校諸生の長所として、實に美しい無邪氣な活氣のあるところは、此處の生徒に多く見ることができません、私の受け持つて居る